

9 年間を通して育てるキャリア教育

— 小中連携を通して —

江南市立宮田中学校 主幹教諭 長岡晃臣

1 はじめに

江南市では、平成21年度より教育基本方針の中で、「進路指導の意義や必要性を理解し、キャリア教育などを含めた教育活動の全領域に『生き方の指導』を位置付け、組織的・計画的に取り組む」としてきた。それを受け、市教育委員会では江南市職場体験委員会を組織しており、商工会議所、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、青年会議所、ハローワークの代表の方もこの会に参加し、中学校における職場体験学習の実施に御尽力いただいている。また、平成22年度より、「家庭や地域の協力を得ながら、児童生徒の健全な生活習慣を育成するために、全小中学校が『人の話を聴く』『挨拶をする』『時間を守る』を共通の努力事項として取り組む」としてきた。毎月10日を目安に、中学校区ごとの挨拶運動を実施するなど、小中連携の強化に努めている。キャリア教育についても、同様に市全体で9年間の全体計画と年間指導計画の作成に取り組み、実践しようとしているところである。

そこで、本校でもキャリア教育を一つの柱として、小中9年間で児童生徒を育てていくことを考えた。その中で特に意識したいことは小中連携である。小中学校の教師が、共通理解した上で指導することが大切であると考え。江南市全体での取組と絡めながら、効果的なキャリア教育の実践について研究を進めていきたい。

2 生徒の実態

愛知県の北西、木曾川を背に豊かな水と緑に恵まれた本校は、かつて田畑に囲まれたのどかな地域であったが、昭和44年に江南団地が完成して都市化が進み、生徒数も急増した。平成4年以降生徒数は減少の傾向をたどり、本年度は生徒数577名となり大規模校から中規模校へと移りつつある。平成20年度からは、学校教育目標の中にある「集団の秩序や規則の大切さを自覚させ、気持ちよく生活し、深く考える生徒」を重点目標とし、「気持ちよく生活」をキーワードとして捉え、教育活動に取り組んだ。

しかし、心に問題を抱え、不登校をはじめとする逃避傾向を示す生徒や、心とからだのバランスが崩れ、体調不良を訴える生徒の割合は現在も高く、自分自身を認めることができない生徒、他人とうまく関われない生徒の存在を問題として捉えている。この問題を解決するためには、個々の生徒に社会の中で生きていくために不可欠な能力を育むことが必要である。これは、キャリア教育の目標と一致した内容である。

そのため、キャリア教育を広め、基礎的・汎用的能力を意図的に育むことが大切であると考えた。また、小中で連携して9年間を通じて取り組むことで、より効果的な指導が可能になると考えた。本校は、宮田小学校と藤里小学校の全児童が進学する校区であるため、この2小学校と連携しながら研究を進めていくこととした。

3 研究の仮説

- (1) 小中連携を強化し、小中学校の教師が共通理解した上で9年間の指導を行えば、基礎的・汎用的能力が効果的に身に付くであろう。
- (2) キャリア教育についての取組を家庭や地域に積極的に発信すれば、理解が深まり、協力が得られるであろう。
- (3) 授業の中で児童生徒の交流の場面を設定し、互いに学び合うことができれば、より意欲的な活動が期待できるであろう。

4 実践の方法

研究の仮説を検証するために、以下の方法で実践することとした。

(1) 小中連携の手だて

- ア 中学校教師や中学生が小学校へ出向き、ともに活動する。・・・**手だてA**
- イ 小学校教師や小学生が中学校へ出向き、ともに活動する。・・・**手だてB**
- ウ 小中学校の教師がともに学び、9年間を見通した指導をする。・・・**手だてC**

(2) 家庭・地域との連携の手だて

- ア 進路だより（キャリア教育特集号）を小中学生を通じて各家庭に配付する。・・・**手だてD**
- イ 江南市職場体験実行委員会やサポート宮田実行委員会と連携する。・・・**手だてE**

(3) 児童生徒の連携の手だて

- ア キャリア教育交流会で、中学生が小学生に向けて職場体験学習の発表を行う。・・・**手だてF**

5 実践の内容と考察

(1) 小中連携の実践

- ア 小中合同挨拶運動・・・**手だてA・B**

江南市では毎月10日を挨拶の日として、各小中学校で合同挨拶運動を行っている。小学生や中学生だけでなく、地域の方にも挨拶を交わし、挨拶の輪を広げている。中学生は中学校の校門と通学路、校区の小学校に出向き、登校してくる小中学生に挨拶している【資料1】。また、小学生が中学校に出向き、小学生と中学生が合同で挨拶を行う姿も見られるようになってきた。キャリア教育の視点からも、人間関係形成・社会形成能力の育成活動の一つとして取り組むことができている。

- イ 小学校出前授業・・・**手だてA**

中学校教師が小学校へ出向き、出前授業を行った。小学校6年生の算数では、中学校での授業と同じように進めた【資料2】。児童にとっては、中学校での授業の進め方を学ぶ場となった。

また、中学校体育主任が小学校で小学校教師に体育のトレーニング方法や指導法を紹介した。中学校の陸上部員が、サ

【資料1 挨拶運動の様子】



【資料2 出前授業（算数）の様子】



キットトレーニングや普段行っているトレーニング方法を演示した。猛暑の中、小学校教師も中学校の陸上部員に習ってトレーニングを体験した。教師にとって、共有したい授業の在り方を研究する場となった。

ウ 陸上記録会に向けた練習会…**手だてA**

小学校の陸上記録会に向けて、中学校の陸上部顧問が小学6年生にアドバイスを行っている。陸上部員も一緒に行き、実際に見本を見せるなど、先輩として立派に役割を果たしている【資料3】。小学生が部活動で鍛えられた憧れの存在である中学生から上達のポイントを知ることは、課題対応能力の育成につながり、中学生が部活動で学んだ技術を小学生に伝えることは、人間関係形成・社会形成能力の育成にもなっている。

【資料3 小学校での練習会の様子】



エ 中学校入学説明会…**手だてB**

本校入学説明会は、2月初旬に行っている。この会には、小学6年生の児童とその保護者が参加している。会の内容は、学習・部活動・生活について中学校教師から説明があり、中学1年生から中学校での1年間の歩みと合唱の紹介がある。そして、中学校の授業参観と部活動参観も行っている【資料4】。また、入学説明会に先駆けて1月に中学校教師が小学校へ出向き、6年生を対象に中学生活についての説明会を行っている。小学6年生の3学期は中学1年生の直前期間であり、中学校入学への心構えをもたせることがねらいである。どの児童も中学校入学までに身に付けたい力を新たな目標としてもつことができ、キャリアプランニング能力育成の機会となっている。

【資料4 授業参観する小学生】



オ 中学校模擬授業…**手だてC**

年間数回、研究授業前に教師が生徒役となって模擬授業を行い、研修を深めている。昨年度は、夕方の教室に小中学校の教師が集まり、英語科と美術科の模擬授業を中学校教師が行った【資料5】。この研修は、小中学校で同じように授業を進めていくことを目的としている。実際に授業を受けた教師は、授業後に感想と参考になった点、改善点を授業者に提出し、授業者は研究授業に向けて改善をしていく。小学校教師の意見は中学校教師にとって新たな視点で書かれたものであり大変参考になる。小中学校で目指している児童生徒像を共有する場となっている。

【資料5 模擬授業（英語）の様子】



カ 小中学校合同研修会…**手だてC**

小中学校の教師が共通理解した上で9年間を通した指導を行うことを目的として、合同研修会を実施している。昨年度の研修会では、なぜキャリア教育が必要なのか、キャリア教育とは何か、今後どのように推進していくのかを学び合った（宮田中 p.4【資料6】）。その中で、小学校の道徳や学活、学習発表会は年間指導計画のどこに位置付けることができ、基礎的・汎用的能力のうち、どの能力を意図的に伸ばすことができるかを協議した。実際にグループごとに話し合ってみると、結果はまちま

ちであった。いかに全体で意識して同じ内容に取り組んでいけるかが大切であると、改めて知ることができた。キャリア教育ノートについても触れ、児童生徒が9年間継続して使用し、自分自身を振り返ることができるようにすることを共通理解した。また、本中学校区では、9年間を見通してキャリア教育を推進するために、3校の教務主任が協力してキャリア教育全体計画とキャリア教育年間指導計画を作成した。全体計画では目標や目指したい児童生徒像を明らかにし、年間指導計画では基礎的・汎用的能力を意識して作成することができた。これを参考例として、市内の他の小中学校へ広め、今後、キャリア教育を江南市の小中連携の一つの柱としていく方針となっている。今年度の研修会では、先進校の授業に学ぶことを目的として、岐阜市立東長良中学校の教務主任を講師に招き、東長良中学校の取組の様子から、授業の中で意識すべきことを小中学校の教師で共有することができた【資料7】。東長良中学校は、基礎学力定着の時間と学び合いの時間を授業内に設定し、生徒が自分たちで授業を創り上げることを目指している学校である。目指す生徒の姿に近いことから、本校とは連携関係にあり、本中学校区の多くの教師が訪問して授業を参観しているため、具体的な理解となった。行事や単発の指導だけではなく、普段の授業から小中学校が連携して9年間で児童生徒を育てていくことを確認する場となった。

キ キャリア教育ノートの活用…**手だてC**

本中学校区で作成したキャリア教育年間指導計画には、愛知県教育委員会が作成した「キャリア教育ノート」の内容が多く取り入れられている。本年度は平成23年度に作成した年間指導計画の内容を試行し、より効果的にキャリア教育ノートが活用できるように改訂した。そして、平成25年度より小学校1年生から中学校3年生まで学期に1授業の配分でピックアップし、使用した「キャリア教育ノート」をファイリングして9年間継続して活用することを計画している【資料8】。改訂については、小中学校の教務主任、進路指導主事と相談しながら行い、2校の小学校は同一歩調で指導を行い、ファイルについては小学校で購入した物を中学校へ引き継いで使用することとした。今後、児童生徒が自分の成長を振り返りながら活用し、目に見える形で行う小中連携の一つとして、継続した取組にしていきたいと考えている。

(2) 家庭・地域との連携の実践

ア 進路だより（キャリア教育特集号）の配付…**手だてD**

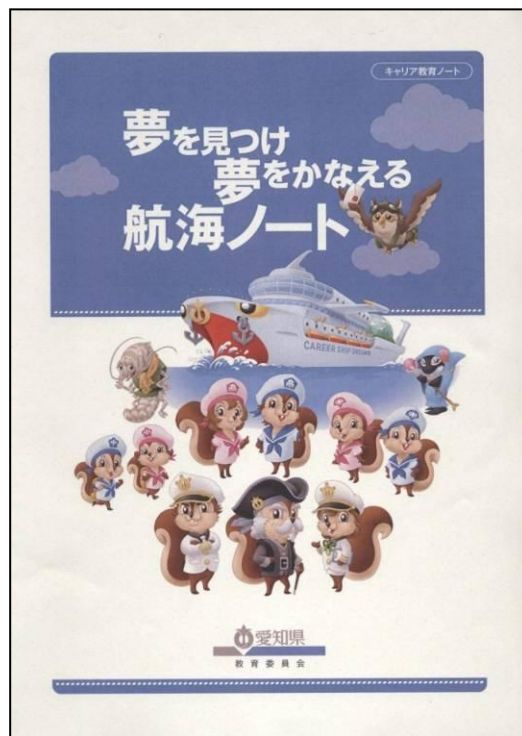
【資料6 キャリア教育学習会の様子】



【資料7 先進校に学ぶ会の様子】



【資料8 キャリア教育ノート表紙】



小中学生とその保護者に向けた啓発活動の一つとして、進路だより（キャリア教育特集号）を発行している【資料9】。内容は、キャリア教育の意義や職場体験学習についてである。キャリア教育は学校だけで行う教育活動ではなく、家庭や地域の理解と協力が不可欠である。来年度からの活用を計画している「キャリア教育ノート」でも、保護者からの言葉を記入する欄が設けられている。家庭への啓発は積極的に行う必要がある。保護者による学校評価アンケートでは、挨拶の項目で前年度を上回る評価をいただくことができた。定期的に進路だよりで啓発を続けていきたい。

イ 江南市職場体験実行委員会への参加
…**手だてE**

江南市職場体験実行委員会で、キャリア教育について研修講師として参加し、各中学校の担当者だけでなく、市内の有識者の方にも学校で進めているキャリア教育について理解を求めた。キャリア教育の必要性や職場体験学習の事前・事後の活動内容を紹介し、児童生徒に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力について共通理解することができた。地域の方への啓発の場として、この委員会と関わっていきたい。

ウ サポート宮田実行委員会の活動…**手だてE**

本中学校区では、宮田中学校校区内及び江南市内の関係諸機関・団体及び学校、家庭、地域住民の連携により地域ぐるみで青少年の健全育成を図ることを目的として、サポート宮田実行委員会が組織されている。構成委員は、小中学校教師、PTA役員、同窓会代表者、区長、主任児童委員、民生児童委員代表、保護司代表の35名である。この会は、鳴子踊り集団「カゼノミヤ響」による地域の夏祭りや江南市主催イベントへの参加【資料10】と小学生対象の公開練習、吹奏楽部による老人福祉施設への慰問活動、地域美化活動への参加、地域自主防災会への参加、中学校体育大会の触れ合い種目への小学生の参加に対する支援を主な活動としている。参加生徒は自主的な集まりの集団である。「カゼノミヤ響」は、3学年で100名を超す生徒が登録している。まさに、地域で児童生徒を育てる活動となっており、地域を支える大人と関わりながら人間関係・社会形成能力を育成する絶好の機会となっている。

(3) 体験活動を盛り込んだ単元の開発…**手だてF**

- ア 単元 働くことについて考えよう
- イ 単元設定の理由

本校では3日間の職場体験学習を予定している。この職場体験学習では、職業の内容や特色を知っ

【資料9 進路だより（キャリア特集号）】

進路だより

江南市立宮田中学校
進路指導部
【キャリア教育特集号】

キャリア教育の一環として、宮田中学校の2年生が「職場体験学習」を行います。3日間、実際にお店や施設で「働く」ことを体験させていただきます。たくさんの方にお世話になります。感謝の気持ちをもって、精一杯がんばります。

応援よろしくをお願いします！

宮中生が職場体験学習に出かけます！

10月25日(火)～27日(木) 3日間

2年生が61カ所のお店や施設で働く喜びや大変さを学びます。名札や胸章を付けて働いているので、見かけたら、声をかけてください！



【昨年度の様子】

すでに事前訪問に出かけました。事前訪問では、自己紹介をし、仕事内容や持ち物などを確認してきました。生徒は多から当日が待ち遠しいようです。



すでに事前訪問に出かけました。事前訪問では、自己紹介をし、仕事内容や持ち物などを確認してきました。生徒は多から当日が待ち遠しいようです。

10月20日(木)に「ホテル」の総支配人付顧問の氏をお迎えし、職業講話を行いました。
『会社は、素直、明るい、元気、礼儀正しい、清潔感がある、いい笑顔ができる人を求めています。働くことをおもしろくするのは自分自身です。』



働くのに必要なことについて、これまで学んできました。

- ・ささいなことにも、全力を尽くしましょう。
- ・自分から進んであいさつをしましょう。
- ・まずは自分自身を変えていきましょう。
- ・人の好意に感謝できるようにしましょう。

後は、実際に働いてみることです。

【資料10 夏祭りに参加する様子】



たり、自分の適性や現状を考えたりすることを通して職業観を育み、職場の人と関わることを通して生き方を学ぶことができる。生徒にとっては学校の中だけでは得ることができない多くのことを学ぶ絶好の機会である。

本校の2年生は働くことに対して、まだ憧れであったり、漠然とした夢であったりする段階である。今回の体験を通して、働くことと生きることの関係に着目し、自分の将来について考えることができるようになってほしいと願っている。また、普段の学校生活の中で、コミュニケーション能力の不足が原因で問題を抱えてしまう生徒が多い。大人の方との交流を通して、働く上でもコミュニケーション能力が必要であることを確認させたい。さらに、人前で自分の考えを発表することに苦手意識を感じている生徒も多い。体験を通して学んだことを発表する場を設定し、話す力、聞く力を高めていきたい。

本単元では、事前学習として「働く人の話を聞く会」を開き、豊富な経験をもつ人生の先輩との交流から、体験前の心構えをもたせたい。職場体験当日には、職場の方と関わりながら活動できるように支援したい。事後学習では職場体験学習で学んだことをまとめ、発表する機会を設定する。発表の段階では、ポスターセッションによる発表、分野代表者による発表、校区内の2つの小学校に出かけての発表と、複数回の発表機会を設定し、他者に働きかける力を育成したい。

ウ 単元の目標

- (ア) 体験的な活動を通して、実社会の様子を身近に捉え、社会生活に関心を持ち、自己の生き方や将来の進路を考えることができる。
- (イ) 幅広い見方から物事を考え、追究することにより、働くことに対する自己の課題を解決することができる。
- (ウ) 追究活動の成果を、筋道を立ててまとめることができる。
- (エ) 情報を正しく活用し、聞く人に分かりやすく自分の考えを伝えることができる。

エ 単元構想 (39 時間完了)

学 習 活 動	留意事項・「キャリア教育」に関わる評価
1 オリエンテーション (1) 職場体験についての目標を確認する。 (2) 事前学習、事後学習を含め、職場体験についての計画を知る。 (3) 体験できる職種を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験では、やりがい、厳しき、コミュニケーションを目標に活動することを確認する。 ・体験当日だけでなく、事前学習や事後学習を含め、生き方について考えていくように助言する。 ・12の職種があることを伝える。
2 職場希望調査 (1) 体験できる職種の仕事内容を確認する。 (2) 希望する職種とその理由を第5希望まで記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の受け入れ事業先を参考に、おおまかな仕事内容を知らせる。 ・希望人数によって調整することを伝える。 ・後日体験先を決定し、伝えることを知らせる。
3 職場体験レベルアップ大作戦 (1) 昨年度の職場体験の取組の様子をま	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの違う職種の体験作文を用意する。

<p>とめの冊子から知る。</p> <p>(2) 職場体験に向けて大切だと思うことを班で話し合い，発表する。</p> <p>(3) 事業所の方の思いを知るために「職場の教養」を見て学ぶ。</p> <p>(4) 職場体験への決意をワークシートにまとめ，班ごとに発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大切だと思う箇所に線を引きながら読むように指示する。 ・職場体験において，みんなが意識したいと考えている項目を取り上げ，ワークシートにまとめるように指示する。 ・「職場の教養」から分かる事業所で働く方の思いを考えながら，ワークシートに書き込むように指示する。 ・お客様だけでなく職場の方や関わっていただいているすべての方々のことを考えてまとめるよう助言する。 <p>評職場体験に生かせることを考える活動を通して，「人間関係形成・社会形成能力（コミュニケーションスキル）」を評価する。</p>
<p>4 働く人の話を聞く会</p> <p>(1) 講師紹介</p> <p>(2) 講演 講師：ホテル総支配人 演題：「学校も仕事も面白いー優等生に負けない勝つ方法ー」</p> <p>(3) 講師への質問</p> <p>(4) お礼の言葉</p> <p>(5) 感想記入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事のやりがい，働くことへの心構え，働く上でのコミュニケーションについて講演内容を依頼する。 ・時間に余裕があれば2つ程度取り上げる。 ・後日，感想の一部を礼状とともに講師へ郵送する。 <p>評豊富な経験をもつ人生の先輩の話聞く活動を通して，「キャリアプランニング能力（学ぶこと・働くことの意義や役割の理解）」を評価する。</p>
<p>5 事前訪問準備</p> <p>(1) 自己紹介カードを作成する。</p> <p>(2) 時間，場所，行き方を確認する。</p> <p>(3) 打ち合わせ内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問で事業所の方に手渡す自己紹介カードを作成し，挨拶の練習をするように指示する。 ・安全第一で事業所まで往復できるように，注意を促す。 ・事前訪問打ち合わせ用紙を配付し，持ち物や質問事項を確認するよう指示する。
<p>6・7 事前訪問</p> <p>(1) 出発チェックを受けてグループごとに出発する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出発指導と自主学習指導に別れて分担する。

<p>(2) 事前訪問準備で確認した内容に従って、職場を訪問する。</p> <p>(3) 帰校の報告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事前訪問打ち合わせ用紙は、一度持ち帰り、保護者に確認印をもらってくるように指示する。 <p>評挨拶を含めたマナーについて意識し、事業所の方との打ち合わせ活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力（コミュニケーション・スキル）」を評価する。</p>
<p>8 直前ミーティング</p> <p>(1) 書類を確認する。</p> <p>(2) 当日の動きを確認する。</p> <p>(3) 職場体験当日の名札を作る。</p> <p>(4) 事業所への質問を記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業所用評価用紙、事業所用事後アンケート、事業所用返信用封筒、記録用紙について確認する。 当日の動きを把握するために、記録用紙の一部を回収する。 読み仮名も書くように助言する。 幼稚園や保育園に行く生徒は、園児と触れ合っても危なくないような名札を、工夫して作るように助言する。 体験する仕事以外の内容や働くときの心構えなど、働くことに関わる質問を考えるように指示する。
<p>9～26 職場体験</p> <p>(1) 3日間の体験を行う。</p> <p>(2) 事後アンケートを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 欠席がある場合は、担当者が家庭から電話連絡を受け、事業所に伝える。 担当の事業所を回り、生徒を支援したり、事業所の方へのお礼をしたりする。 事前学習で明らかになった体験を通して学ぶべき視点を意識して活動するよう支援する。 生徒の活動の様子を撮影し、学校のウェブページに公開することで、保護者や地域の方に向けて情報発信する。また、事後に行うまとめの冊子やポスター作りに活用する。 生徒用事後アンケートを記入し、保護者用事後アンケートとともに、担任教師に提出するよう指示しておく。 事業所用評価用紙と事業所用事後アンケートは、後日郵送してもらうように事業所の方に依頼するよう指示しておく。 <p>評3日間の体験活動を通して、「自己理解・自己管理</p>

	<p>能力（主体的行動）」と「キャリアプランニング能力（学ぶこと・働くことの意義や役割の理解）」を評価する。</p> <p>評職場での交流活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力（コミュニケーション・スキル）」を評価する。</p>
<p>27～29 まとめの冊子作り</p> <p>(1) 礼状を作成する。</p> <p>(2) 原稿を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 礼状の形式を用意し、それに従って感謝の気持ちを表現できるよう支援する。 ・ この原稿を基にまとめの冊子を作り、各自の振り返りとし、来年度以降の参考にすることを伝える。
<p>30 ポスター作り</p> <p>(1) まとめの冊子作りでまとめた内容を基に、発表のシナリオを作る。</p> <p>(2) ポスター作りの分担をする。</p> <p>(3) ポスターの下書きを完成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表は1グループ5分であることを確認する。 ・ 発表で伝えたい内容を分かりやすい順に並べることでシナリオ作りとするよう指示する。 ・ グループの人数に応じて作業が均等になるように分担するよう助言する。 ・ 次時に新たな資料を付け加え、ポスターを完成させることができるように、見通しをもって活動するよう助言する。 <p>評発表を見通したポスター作りの活動を通して、「課題対応能力（計画立案）」を評価する。</p>
<p>31・32 資料収集と発表内容の精選</p> <p>(1) 発表で付け加えたい資料を収集する。</p> <p>(2) 新たな資料を付け加え、ポスターを完成させる。</p> <p>(3) 発表内容を精選する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験した職種に関して、インターネット、書籍、体験先で入手した資料を収集し、発表に付け加えるかどうか取捨選択する。 ・ 聞き手に分かりやすいように、レイアウトや色使いを意識して完成させるよう助言する。 ・ 発表時間の5分を意識して発表内容を確定するよう指示する。 <p>評資料収集活動を通して、「課題対応能力（情報の理解・選択・処理）」を評価する。</p>
<p>33・34 発表原稿作り</p> <p>(1) 発表時の分担をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループの人数に応じて、発表の量が均等になるよう助言する。

<p>(2) 担当箇所の発表原稿を作成する。</p> <p>(3) 発表練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に伝わりやすいように文章を構成したり、資料を活用したりすることを意識して、原稿を作成するよう助言する。 ・声の大きさや話す速度を意識して練習するよう助言する。 <p>評発表会への見通しをもった原稿作りや発表の練習活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力（他者に働きかける力）」を評価する。</p>
<p>35・36 ポスターセッションによる発表会</p> <p>(1) ポスターセッション形式により、前半の発表会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前半発表者は、聞き取り評価用紙の項目を基に評価し、分野ごとの代表グループを選出する。 ○ 後半発表者は、発表内容について自分と同じ点、違う点を振り返り用紙に記入する。 <p>(2) ポスターセッション形式により、後半の発表会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 後半発表者は、聞き取り評価用紙の項目を基に評価し、分野ごとの代表グループを選出する。 ○ 前半発表者は、発表内容について自分と同じ点、違う点を振り返り用紙に記入する。 <p>(3) 発表の自己評価と発表を聞いて新たに分かったことを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表順は事前に決めておく。 ・前半発表者は、各グループの発表ごとに聞き取り評価用紙に評価を記入するよう指示する。全グループ発表後、集約する。 ・後半発表者が聞きに行くグループは事前に決定し、把握しておく。 ・振り返り用紙への記入は、発表を聞きながら行うように事前指導しておく。 ・発表順は事前に決めておく。 ・後半発表者は、各グループの発表ごとに聞き取り評価用紙に評価を記入するよう指示する。全グループ発表後、集約する。 ・前半発表者が聞きに行くグループは事前に決定し、把握しておく。 ・振り返り用紙への記入は、発表を聞きながら行うように事前指導しておく。 ・発表についてよかった点をあげ、よりよい発表を目指せるよう意欲をもたせる。 ・代表グループは、後日に公表することを伝える。 ・次時は学年全体で代表グループの発表を聞くことを伝える。 <p>評ポスターセッション形式により、発表内容について自分と同じ点、違う点を意識して発表を聞く活動を通して、「キャリアプランニング能力（働くことの意義や役割の理解）」を評価する。</p> <p>評準備した資料を基に、工夫して分かりやすい発表を行うことと、聞き手に伝わりやすいかどうかの視点をもって発表を聞く活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力（他者に働きかける力）」を評価</p>

<p>37・38 分野代表発表会</p> <p>(1) 発表を聞くときのポイントを確認する。</p> <p>(2) 代表グループの発表を行う。</p> <p>(3) 発表に対する評価と振り返りを行う。</p>	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年集会の隊形で発表会をセッティングする。 ・前回の発表と同様の視点を与え、評価用紙にメモを取りながら聞く力を高められるよう指示する。 ・1グループ5分の発表とする。 ・前回の発表会で受けた評価から改善し、よりよい発表ができるように事前に助言を与えておく。 ・評価用紙に評価を書き込むよう指示する。 ・発表グループは自己評価も行うよう指示する。 ・発表を聞いて新たに気付いたことを評価用紙に記入させ、振り返りとする。 <p>評発表や視点をもって聞く活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力（他者に働きかける力）」を評価する。</p>
<p>39 小学校キャリア教育交流会</p> <p>(1) 小学6年生に人はなぜ働くのかを考えさせる。</p> <p>(2) 4グループの職場体験発表を行い、キーワードを知らせる。</p> <p>(3) 働くために必要なことを考えさせ、日頃の学校生活で努力できることを学習プリントに記入させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数人の児童を指名し、働く理由を尋ねる。 ・働くことが必要であることを確認する。 ・1グループ5分の発表とする。 ・働くために必要なことが理解しやすいよう、発表ごとにキーワードを確認する。 ・キャリア教育では、働くために必要な「基礎的・汎用的能力」を育むことが大切であることを伝える。 ・小学校での学校生活から努力を続けることが、将来の役に立つことを伝える。 <p>評2回の発表から小学生に分かりやすい発表へと改善し、発表する活動を通して、「人間関係形成・社会形成能力（他者に働きかける力）」と「課題対応能力（評価・改善）」を評価する。</p>

オ 授業の実際

本単元では、職場体験学習で学んだことを他へ広めることを一つのねらいとしているため、ポスターセッションによる発表会、分野代表発表会、小学校での発表会と多くの発表の機会を設定した。ここでは、人間関係形成・社会形成能力（他者に働きかける力）を育成するための発表の場に着目し、考察したい。職場体験学習で多くのことを学んだ生徒たちは、資料と発表原稿を作成し、まず事業所ごとにポスターセッションでの発表を行った（宮田中 p.12【資料11】）。ポスターセッションは、生徒たちにとって初めての発表形式であった。発表者は前半グループと後半グループに別れ、各自の教室で発表を行った。発表者以外は聞き手となり、2種類の用紙への記入を行った。一つは、4項目に対

して数値と一言コメントで発表に対する評価を行う聞き取り評価用紙である。もう一つは、自分の発表に対する自己評価と他の発表を聞いて自分の発表と同じ点、違う点を記入する振り返り用紙である。口頭発表の機会に慣れていない多くの発表者は、声が小さく、聞き手ではなく原稿ばかりを見たりしてしまい、満足のいく発表には届かなかった。そのため、聞き取り評価用紙には厳しい意見も書かれていた【資料12】。そして、「働くことの楽しさ、大変さ、やりがいなどを感じ取ることができたか」の評価は数値こそ高いものの、一言コメントの内容は深みのあるものにはならなかった。これは、働くことの意義や役割はおおまかには理解できるが、発表内容の精選が不十分であったり、話し方が不十分であったりしたためであると考えられる。生徒たちが自分の発表の自己評価と他の生徒から受けた評価を比較して振り返りを行ったところ、多くは自己評価の方が数値が高く、自分が思っているよりも聞き手には伝わっていないことが分かった。また、振り返り用紙の「発表を聞いて新たに気付いたこと」の欄には、

【資料13】のような内容が書かれていた。この内容から、今回の発表会を通して、自分の思いや考えを他者に伝えるには、相手を意識した話し方や資料、発表の工夫が必要であることに気付いたことが分かる。代表グループについては、次の発表の機会があるため、今回気付いたことを改善して次回の発表に臨むことにした。

次に行われたのは分野代表発表会である。ポスターセッションによる発表会で高い評価を受けた職種の違う10グループが学年全員の前で発表を行った(宮田中 p.13【資料14】)。この発表会では画用紙に書かれていた発表資料をデータ化してプレゼンテーションソフトに取り込み、発表を行った。聞き手は前回同様、発表に対する評価とコメントを用紙に記入した。発表者は、前回の他の生徒からの評価と新たな気付きから話す速さ、声の大きさ、顔の向きなど相手を意識した話し方で発表するようになった。

これは相互評価をすることにより、よりよい発表をイメージできるようになった成果であり、少し自信をもって発表することができた。また、聞き手も発表者の様子やプレゼンテーションソフトで示された資料を見ながら、評価とコメントを記入することに慣れた様子が見られた。

【資料11 ポスターセッションの様子】



【資料12 聞き取り評価用紙】

聞き取り評価用紙

発表教室 2-4 発表順 ①

1 話す速さは適切であったか。

④ 3 2 1

一言コメント: とほほききとりやすいスピード、良かったと思います。

2 声の大きさは適切であったか。

4 3 ② 1

一言コメント: もう少し、大きい声か、ききとりやすいように思います。

3 働くことの楽しさ、大変さ、やりがいなどを感じ取ることができたか。

4 ③ 2 1

一言コメント: 質問内容も、発表していて、職員的心境も分かり、良かったです。

4 資料が効果的に活用されていたか。

4 3 2 ①

一言コメント: ①の添いの資料が字が小さく、なので、図や表にするのが良かったと思います。資料の整理も、とてもいいと思います。

4:よかった 2:あと一歩
3:まあまあよかった 1:もっと努力したい

【資料13 振り返りの内容】

- ・ 話すときの顔の向きは大切だ。
- ・ 資料と声の大きさが分かりやすさが大きく変わる。
- ・ クイズなど発表に工夫があると聞きやすい。

この単元の最後に行われたのが、小学校での職場体験活動発表である【資料 15】。小学校では、キャリア教育交流会と題して、中学生の職場体験学習発表の前には人はなぜ働くのかを考え、発表の後にはこれからの小学校生活で努力することを考えた。中学生の発表グループは2つの小学校に分かれ、それぞれ4グループが発表を行った。これまでの発表と大きく違うのは、聞き手が職場体験を行っていない小学生であり、資料や発表の工夫が今まで以上に必要な点である。そのため、今回の発表では、それぞれの発表グループごとに一番伝えたいキーワード【資料 16】を選び、発表の最後にそのキーワードを伝えることと、クイズ形式を取り入れて小学生が参加しながら聞くことができるようにした。キーワードについては、基礎的・汎用的能力の4つを意識して決定した。今回の発表では、資料の大幅な修正はなかったもののキーワードを意識した小学生に分かりやすい言葉での発表を工夫することができた。先輩として体験から学んだことを後輩に伝える姿からは、頼もしさを感じられた。これは評価・改善を繰り返し、相手を意識した発表を具体的にイメージできるようになった成長した姿だと思われる。また、どのグループの発表でも共通して取り上げられたのが人間関係であったため、挨拶や言葉遣いに関する次のような小学生の記述【資料 17】が目立った。

【資料 14 分野代表発表会の様子】



【資料 15 キャリア教育交流会の様子】



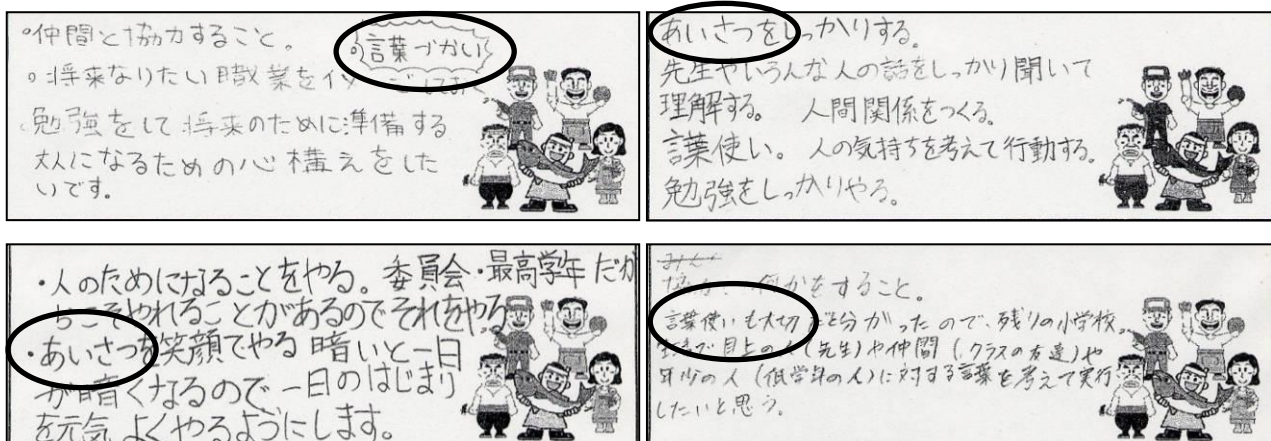
【資料 16 発表グループのキーワード】

<発表キーワード>

人間関係・自分を知る

改善能力・将来のイメージ

【資料 17 キャリア教育交流会での小学生の記述】



本単元では、以上のように生徒は最大で3回の発表を行った。初めは十分な発表をすることができなかったが、発表のたびに評価・改善を行うことで課題対応能力を身に付け、相手を意識した発表により他者に働きかける力を高めることで人間関係形成・社会形成能力を身に付けて成長することができた。具体的なイメージをはっきりと持ち、繰り返し行うことで自信をもって意欲的に活動できるようになった一つの事例であると思われる。

昨年度に小学6年生でキャリア教育交流会を行った児童が本年度は中学1年生となり、1学期に次のような授業で中学校でのキャリア教育の学習をスタートさせた【資料18】。

【資料18 中学1年生「夢や希望を大切にしよう」の指導案】

1 題材 夢や希望を大切にしよう

2 題材設定の理由

この時期の生徒の将来に対するイメージは漠然としたものである。そこで、まず将来の夢や希望をもつことの大切さについて理解を図りたい。そのために、教師や級友の夢を知り、共感できる場面を設定したり、15年後の自分に目を向けて、将来の自分の姿を想像したりする場面を設定して、多くの夢や希望があることに気付かせたい。そして、夢作文で現段階での考えをまとめ、今後の生活やキャリア教育の学習への意欲を高めたい。

3 指導計画（1時間完了）

○ 夢や希望を大切にしよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間（本時）

4 本時の指導

(1) 目標

- ア 夢や希望をもつことの大切さを知り、夢や希望を抱くことに共感をもつ。
- イ 具体的な自分の夢を考えることにより、キャリア教育への学習意欲を高める。

(2) 準備

- 教師・・・・ワークシート、だれの夢クイズ、教師の中学生時代の夢作文
- 生徒・・・・アンケート集計結果（学級役員）

(3) 指導過程

段階	生徒の活動	形態	支援・留意点	評価と方法
導入 10分	1 アンケート結果を知る。 (1) 夢がありますか。 (2) どんな夢ですか。 2 学年担当教師の夢を知る。 (1) だれの夢クイズを行う。 (2) 中学時の夢作文を聞く。	全体 全体	・学級役員が進行する。教師は、その進行を支援する。 ・全国の「中学生の就きたい職業」、「保護者が就いてもらいたい職業」を紹介する。 ・学年担当教師で協力し、事前にだれの夢クイズと夢作文を紹介できるように準備する。	
展開 30分	3 15年後の自分を考える。 (1) 15年後の自分にインタビューする形式でワークシートに記入する。 (2) 班で発表し合い、共感をもつ。	個人 班	・ワークシートを配付し、個人で記入するよう指示する。 ・1班4人で編成する。 ・役割を確認する。 ↓ ① インタビュアー ② 発表 ③ 感想 ↓ ④ 感想	・自分の将来について考え、級友の発表に感想をもつことができたか。 (ワークシート、観察)

	4 小学校6年生時の「キャリア教育交流会」で、先輩が職場体験学習の発表をした際の4つのキーワードを確認する。	全体	・4つのキーワード「人間関係」「自分を知る」「改善能力」「将来のイメージ」を示し、夢作文の参考にしよう助言する。	
整理 10分	5 夢作文を書き、今後の生活やキャリア教育の学習に意欲をもつ。	個人	・「現在の夢」と「意気込み」をキーワードとして書き入れるように指示する。	・今後の生活やキャリア教育の学習に意欲をもつことができたか。(ワークシート)

(4) 評価

ア 教師や級友の夢を聴くことで、夢や希望を抱くことに共感することができたか。

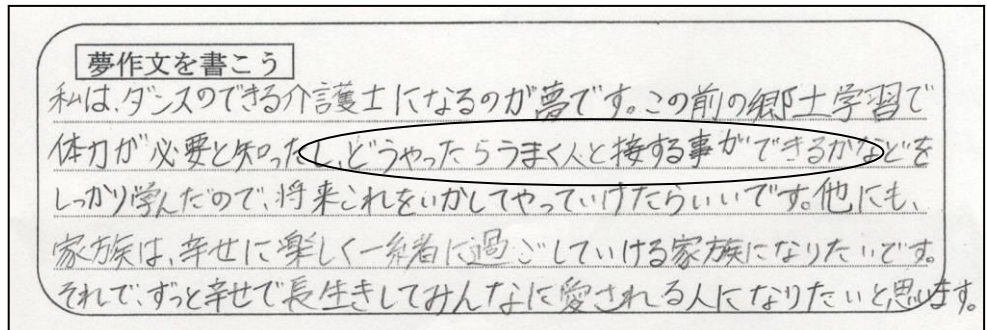
イ 15年後の自分をイメージすることで、今後の生活やキャリア教育の学習に意欲をもつことができたか。

5 事後指導

- 今後の生活の中で、「人間関係形成能力」と「役割意識」を意識して、級友と協力して自分の役割を責任をもって果たす経験を積み重ねることができるようにする。

キャリア教育交流会を振り返る場面では、多くの生徒が人間関係に注目し、今後の生活やキャリア教育の学習に対する意欲を高めることができた【資料19】。

【資料19 中学1年生「夢や希望を大切にしよう」のまとめ作文】



また、中学2年生として職場体験学習のまとめと発表を行った生徒は中学3年生となり、1学期に次のような授業を行った【資料20】。

【資料20 中学3年生「主体的な進路選択」の指導案】

1 題材	主体的な進路選択
2 題材設定の理由	進路選択で大切なことは、生徒が自分の意思で決定することである。そこで、実際にどのようなことを参考にして考えればよいかを学ぶ場を設定したい。そして、各自の進路選択や将来設計が、単に卒業後の上級学校や事業所のみのものではなく、本当に将来の生活を見通したものであるかどうかを確認させたい。
3 指導計画（1時間完了）	○ 主体的な進路選択・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間（本時）
4 本時の指導	

(1) 目標

ア 中学校卒業後の進路選択する理由を考え、整理する。

イ 将来希望する生き方や職業と、卒業後の進路希望先を関連付けて考えることの大切さを理解する。

(2) 準備

教師・・・ワークシート

生徒・・・アンケート集計結果（学級役員）

(3) 指導過程

段階	生徒の活動	形態	支援・留意点	評価と方法
導入 5分	1 アンケート結果を知る。 (1) 卒業後の進路希望 (2) 進路選択の理由	全体	・学級役員が進行する。教師は、その進行を支援する。 ・進路選択の理由の中で、将来の夢に関わる理由に注目するよう促す。	
展開 35分	2 進路選択理由について考える。 (1) 必要な進路選択の理由 ベスト3を決める。 (2) 発表する。 3 職場体験学習で学んだことを確認する。	班 全体 全体	・1班4人で編成する。 ・ベスト3はアンケート結果から選んでもよいし、新たに付け加えてもよいことを助言する。 ・ベスト3を選んだ理由も合わせて考えるよう指示する。 ・発表内容を板書し、整理する。 ・多くの先輩が、「将来希望する職業に役立つ技術や学力が身に付くから」という理由で進路選択していることを紹介する。 ・職場体験学習の分野別代表者の発表内容を示す。 「挨拶の大切さ」 「相手の立場を考え接する」 「協力することの大切さ」 「人の役に立つことの喜び」	・優先する進路選択の理由について考えることができたか。(ワークシート)
整理 10分	4 進路先でがんばりたいことをまとめる。	個人	・将来の夢をキーワードとして、自己PR文を「キャリア教育ノート」に書くように指示する。	・主体的な進路選択に向けて、前向きに書くことができたか。(ワークシート)

(4) 評価

- ア 級友の意見を参考にして、進路選択の理由について考えを深めることができたか。
- イ 将来希望する生き方や職業と関連付けて、進路希望先でがんばりたいことをまとめることができたか。

5 事後指導

- 今後の進路相談の中で、学力だけでなく、将来希望する生き方や職業と関連付けて進路選択ができるようにする。

中学校卒業後の進路選択をする年となった中学3年生の生徒は、職場体験学習で学んだことを振り返り、コミュニケーションの大切さや役割をもって働くことを改めて確認することができた。そして、今後の進路選択に生かして前向きに考えるきっかけになった【資料21】。

6 成果と課題

(1) 成果

- 小中連携がより推進され、「人間関係形成・社会形成能力」と「課題対応能力」が効果的に身に付いた。
 - ・キャリア教育をきっかけに、小中学校間で教師がともに学ぶ機会が増えた。そして、育てたい児童生徒の姿を共有できるようになり、来年度からの「キャリア教育ノート」の活用をはじめ、今後の見通しをもつことができるようになった。
 - ・小学生が中学校へ、中学生が小学校へ出向く機会が増え、小学生は中学校生活への見通しと先輩への憧れをもつことができ、中学生は自分の役割を果たす責任感と学んだことを後輩へ働きかける力を身に付けることができた。
 - ・教師と中学3年生のアンケート結果（宮田中 p.18 【資料22】）から、「他者の個性について理解している」割合が高まった。また、将来働くことについての不安は和らいでいない（宮田中 p.18 【資料23】）ものの、職場の人間関係に対する不安の割合は減少している（宮田中 p.18 【資料24】）。これらのことから、「人間関係形成・社会形成能力」が高まったと言える。

【資料21 中学3年生「主体的な進路選択」『キャリア教育ノート』より】

夢をかなえる航海ノート

主体的な進路選択

あなたはどんな理由で進路先を選んでいますか？
将来希望する生き方や職業のことを考えて選んでいますか？
友達の見を参考にして、将来の夢に近づくことができる進路を、自分の意志で選択していきましょう！

氏名()

進路選択の理由ベスト3	選んだ理由
③ 自分に合った高校で、しっかり勉強していい順位をとって大学に進みたいから。	自分に合った高校のほうが、成長しやすいから。
① 公立に行くと、親はあまり迷惑がかからないようにしたいから。	私立は、お金がかかって親にめいわくがかかるから。
⑥ 自分を成長させられる	自分の可能性を広げようとしているから。

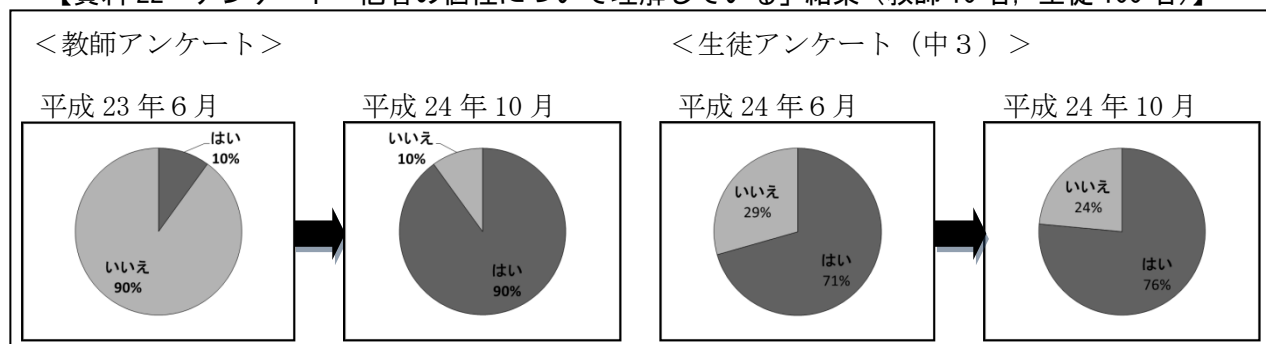
自己PR文を書こう

・キーワードは「将来の夢」！
・進路先の方に読んでもらうつもりで書こう！

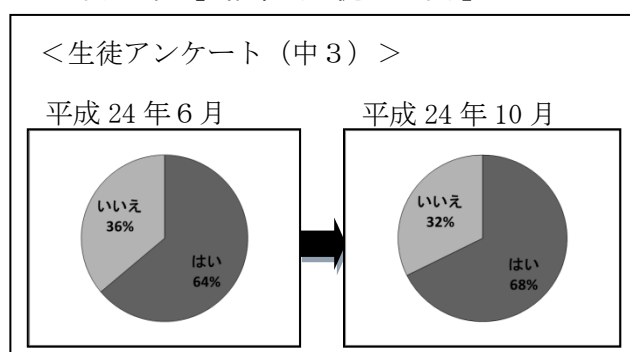
私の将来の夢は、「看護師」になることです。理由は、何か人を助ける仕事がしたいと思った時、看護師が自分に向いていると思ったからです。

私の良い所は、明るい所です。看護師の仕事は、人と接する事が多いので、私の明るさでいろいろな人を笑顔にしたいです。

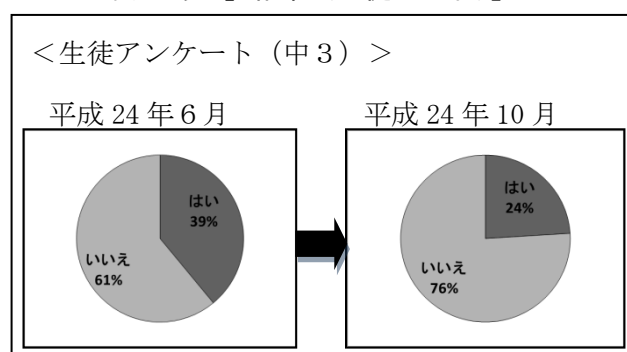
【資料22 アンケート「他者の個性について理解している」結果（教師10名，生徒100名）】



【資料23 アンケート「将来働くことについて不安である」結果（生徒100名）】

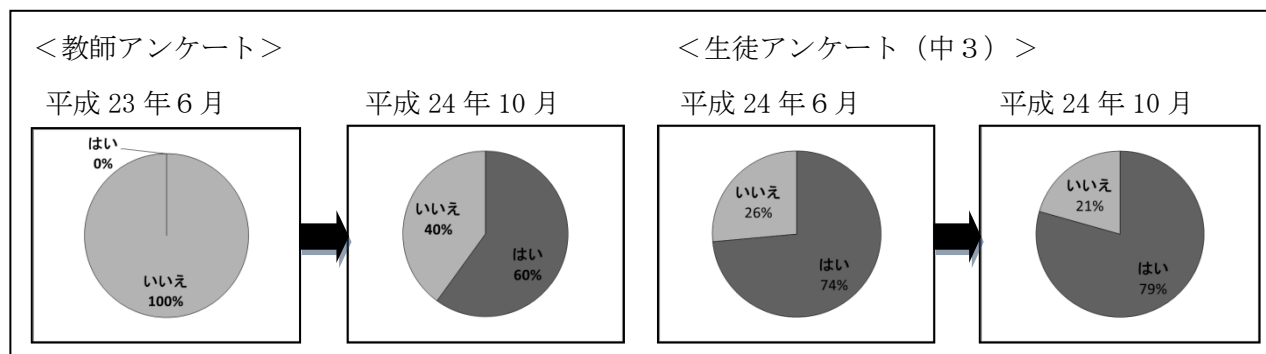


【資料24 アンケート「職場の人間関係について不安である」結果（生徒100名）】



- ・教師と中学3年生のアンケート結果【資料25】から、「課題の解決に必要な情報を，適切に選択している」割合が高まった。このことから、「課題対応能力」が高まったと言える。

【資料25 アンケート「課題の解決に必要な情報を，適切に選択している」結果（教師10名，生徒100名）】



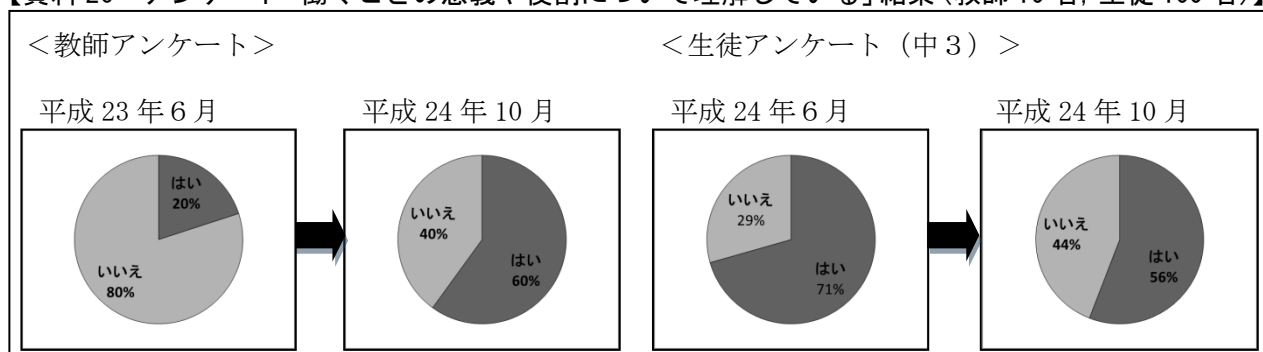
- 家庭や地域とのつながりが強くなり，理解が深まった。
- ・進路だより（キャリア教育特集号）の発行や江南市職場体験実行委員会で保護者や地域の方へ学校でのキャリア教育の取組を広めることで，理解が深まった。その成果として，職場体験中の学校ウェブページの閲覧件数が普段より250件以上多い650件を超える日があったり，地域の方から「ごみ出しをしているときに，いつも挨拶をしてくれる生徒さんがいてうれしいです」という内容のお手紙をいただいたりした。また，サポート宮田実行委員会の活動を通して，地域の方と触れ合い，地域の方に学ぶことは，児童生徒の人間関係形成能力や役割意識を高めることに役立った。
- 小中学生の交流が授業の中で行われるようになり，意欲的な活動となった。
- ・小学校キャリア教育交流会では，小学生にとっては身近な先輩からアドバイスをもらいながらキ

キャリア教育を学ぶ貴重な場となり、中学生にとっては自分たちが学んだことをまとめ、広める経験ができる貴重な場となり、互いの意欲を高める結果となった。そして、次学年に進んだときに、つなげて学習することで、学びを累積することができた。

(2) 課題

- ・教師のアンケート結果では、「働くことの意義や役割について理解している」割合が高まったが、中学3年生のアンケート結果では、逆に割合が低くなっている【資料 26】。これは、90%以上が高等学校への進学を希望している中学3年生の生徒の意識が、将来就きたいと考えている職業よりも、目前に迫ってきた進路選択に向いていることが要因だと考えられる。将来と中学校卒業後の進路選択をつなげて考えられるような指導の改善が必要である。

【資料 26 アンケート「働くことの意義や役割について理解している」結果(教師 10 名, 生徒 100 名)】



- ・今後も継続して9年間を通したキャリア教育を展開するために、教務主任や進路指導主事の役割を明確化し、小学校と中学校の引き継ぎをどのように行うかを考えなければならない。
- ・家庭や地域へ発信する内容を精選し、学校での取組を具体的に伝え、生徒とともに活動できるような協力体制を作っていく必要がある。
- ・中学生が小学校の授業に参加することを続けるとともに、小学生が中学校での授業に参加できると、交流がより活発に行えると思われる。また、一部の児童生徒だけでなく、全員に交流の機会を用意できる環境作りが必要である。

7 おわりに

キャリア教育の目標は、個々の子どもたちが、社会の中で生きていくために不可欠な能力を育むことである。この目標を実現するには、単発の教育活動ではなく、長いスパンで系統的に行う必要がある。本研究を通して、児童生徒が繰り返して活動することができ、評価・改善しながら成長できる環境作りがキャリア教育の効果をより大きくすることを実感した。今後も、家庭や地域にキャリア教育の理解を広めながら、9年間を通して育てたい児童生徒の姿を大切に、小中で連携しながらキャリア教育を推進していきたい。

- 参考文献
- ・愛知県教育委員会義務教育課 キャリア教育推進の手引き「小中学校9年間を見通したキャリア教育」
 - ・愛知県中学校産業教育研究協議会 「愛知県 中学生生活と進路(第1～3学年)」

平成24年度「キャリア教育 実施内容」 宮田中・宮田小・藤里小校区

【資料27】

期 月	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
小1 教科・ 内容	学活「友だち になろう」	学活「かか りのしごとを くふうしよう」	道徳「もぐれ るよ」	国語「ほんは ともち」	学活「かか りのしごとを 見なおそう」	学活「友だち のよいところ」	生活「あきの おもちやだ いしゅうごう」	道徳「くつあ らい」	生活「むかし のあそびをお しえてもら うかい」	生活「ほい くほうも ん」	国語「おも い出してか こう」
内容	自分の名前や好きなことを発表し合い、人間関係を築く。	学級の生活に必要な係活動を知り、自分自身で工夫することで、よりよい生活を目指す。	いろいろながんばんり方を知り、自分なりの方法で努力しようとする意欲を高める。	読み物に興味をもち、行動や気持ちについて想像を広げながら読む力を身に付ける。	1学期の係活動を振り返り、評価・改善して、よりよい活動を目指す。	友達の良いところを見つけて発表し合い、自分のよいところに気付くことができる。	自分で作った秋のおもちや遊びを振り返り、自然を生かして生活を豊かにするよさに育てる。	働くことの喜びを知り、進んで働くこととする気持ちをはぐくむ。	地域の人と関わりながら、昔の遊びで楽し遊ぶことができる。	関与と積極的に関わりながら、一緒に活動する喜びや関わる楽しさを共感する。	必要なことを進んでメモし、組み立てて考えて書くことができる。

期 月	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
小2 教科・ 内容	道徳「おき やくさま」	生活「どきど きわくわく町 たんけん」	学活「雨の日 の遊びを考え よう」	国語「うれし いことば」	学活「夏休み の発表会をし よう」	道徳「たん じょう日のプ レゼント」	生活「みんな でつこうフェ スティバル」	国語「すん で考えを出し 合おう」	道徳「きゆう きゆうたいの おじさん」	学活「卒業生 を送る会の相 談をしよう」	学活「みんな のよかったと ころを見つ けよう」
内容	気持ちのよいあいさつを心がけて、明るく接しようとする気持ちを育てる。	地域の人と接しながら町の不思議を発見し、グループで協力して探検する。	雨の日の遊びを考える中で、学級の課題を思いだし、解決しようとする。	言葉には気持ちを伝える働きがあることに気付く、うれしい言葉で生活を心がける。	夏休みに体験したことを友達に分かりやすく発表する。	働くことの意義を理解し、進んで働くこととする気持ちを育てる。	自分たちで協力して企画や準備を行い、楽しいフェスティバルを開く。	自分が伝えたいことを整理して話したり、反応しながら聞くことができる。	みんなのために働く人々に対し、尊敬と感謝の気持ちを育てる。	送る会の意義を知り、役割分担をして自分の役割に責任をもって取り組む意欲をもつ。	友達や学級のよかったところを発見し、自分自身の成長を実感する。

期 月	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
小3 教科・ 内容	学活「新しい 学級をつくろ う」	国語「しつも んをしたらん しやう」	道徳「ドッ ジボール」	国語「用件や 気がついたら もちに書こう」	社会「はたらく 人とわたした ちのくらし」	道徳「ことば のまほう」	学活「学習発 表会を成功さ せよう」	学活「友だち のよさ・自分 のよさを見つ けよう」	学活「学級の くらしを工夫 しよう」	道徳「たすけ 合い」	学活「3年生 さよなら集 会をしよう」
内容	協力して楽しく過ごす、日常の生活や学習に意欲的に取り組もうとする態度を育てる。	話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりする。	友達の気持ちを考え、励まし合い、助け合おうとする気持ちを育てる。	用件を明確にし、目的や必要に応じて書き方を工夫して書くことができる。	地域で働く人々の様子を知り、その特色や工夫した取り組みについて学ぶ。	礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接しようとする意欲を育てる。	自分の役割に連んで取り組み、互いに認め合い、励まし合い、協力し合う。	友達の良いところを見付け、自分自身の長所にも気付くことができる。	学級生活の中で、自分たちでできることを探し、自治活動能力を高める。	生命の大切さを知り、互いに助け合おうとする気持ちを育てる。	仲間とともに過ごした一年間の成果を確かめ合い、自分自身の成長を実感する。

期 月	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
小4 教科・ 内容	道徳「一びき オオカミのそ ろり」	国語「話し合 いのついでに かこうしよう」	総合「環境調 査 フラワー パーク江南」	学活「なかよ し集会をしよ う」	社会「住みよ い暮らしをつ くろう」	総合「命」	学活「学習発 表会を成功さ せよう」	道徳「ぼくの できること」	学活「新しい 年の目標をた てよう」	道徳「二分の 一成人式」	総合「お別 れ集会をしよ う」
内容	相手の気持ちを思いやり、過ちは素直に改めようとする気持ちを高める。	合意点を見付けようとして話し合い、話し合いによって物事を決める楽しさを知る。	環境問題についての学習テーマを追究するために、情報収集の計画を立てる。	なかよし集会を企画・運営し、友達と仲よくすることを確認し合い、学年の絆を深める。	地域の人々の健康と安全を守るための働きと、その工夫や努力を理解することができる。	命の大切さを改めて知り、生んでくれた親への感謝の気持ちを高める。	自分の役割に連んで取り組み、互いに認め合い、励まし合い、協力し合う。	働くことの大切さを知り、進んで働くこととする気持ちを高める。	高学年を目前にした自分自身を振り返り、新たな目標を立て、意欲的な生活を目指す。	今の自分を見つめ、家族への感謝の気持ちを表し、将来の自分の姿をイメージする。	仲間とともに過ごした一年間の成果を確かめ合い、自分自身の成長を実感する。

期 月	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
小5 教科・ 内容	道徳「ナイス シュート」	家庭科「見つ めよう！家庭 生活」	学活「学級の 活動を再出 発させよう」	学活「ボラン ティア活動に 参加しよう」	国語「自分の 考えをまとめて 討論しよう」	総合「見つけ よう バリア フリー」	学活「学習発 表会を成功さ せよう」	道徳「女性指 揮者たん生」	道徳「歩道に とめられた自 転車」	総合「最高学 年に向けて」	学活「心のこ もった卒業生 を送る会にし よう」
内容	協力するすばらしさを感じ取り、相手を認め合おうとする気持ちを高める。	家庭生活に関心をもち、正しく安全な道具の使い方を学ぶ。	学級の日々の活動を振り返り、新たな目標をもち、よりよい学級の活動を目標とする。	勤労の価値や必要性を養い、進んで他に奉仕しようとする態度を育てる。	説明文を注意して読み、自分が興味をもった課題について調べ、文章にまとめる。	ユニバーサルデザインに配慮した生活環境と生活空間について探究する。	自分の役割に連んで取り組み、互いに認め合い、励まし合い、協力し合う。	自分のよいところを知り、精一杯の努力によってさらに伸ばそうとする気持ちを高める。	総合で調べたバリアフリーを基に、社会で役立つ大切な目標を定める。	学校の柱となり、全校が憧れる存在になるためにはどうするかを考える。	卒業生への感謝の気持ちを表すとともに、自らの学校生活を向上させる。

期 月	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
小6 教科・ 内容	学活「思い出 に残る修学旅 行にしよう」	総合「様々な 仕事」	家庭科「工夫 しようさわか な生活」	道徳「二つの 投書」	学活「夏休み 体験発表会」	保健「健康な 食生活を考え よう」	学活「学習発 表会を成功さ せよう」	国語「本は友 達」	総合「仕事調 べ」	総合「卒業奉 仕作業」	国語「卒業す るあなたたち へ」
内容	修学旅行の意義を理解し、自分たちで決めた、思い出に残る旅行にする。	将来の夢を目指し、社会を支える様々な仕事や身近な大人たちの職業に目を向ける。	衣服のはたきや生活にあった着方について理解し、自分の生活を工夫・改善する。	親切について話し合い、相手の立場に立って人に親切にしようとする気持ちを高める。	夏休みに体験したことを友達に分かりやすく発表する。	自らの食生活を振り返り、その問題点を発見し、問題に負けない適切な行動を選択する。	自分の役割に連んで取り組み、互いに認め合い、励まし合い、協力し合う。	読み手に本のおもしろさが伝わるように工夫して、本の帯の文章を書く。	働くことの意義や役割を理解し、中学生の職場体験学習報告書を書いて新たな目標をもつ。	卒業に向けて、お世話になった方への感謝の気持ちを込めて、奉仕活動を行う。	全体発表から自分の考えを上げ、自分の考えが伝わるように朗読をする。

期 月	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
中1 教科・ 内容	道徳「美しく 自分を染めあ げてください」	学活「仲間を 誘おう！仲間 加わろう」	学活「夢や希 望を大切にし よう」	道徳「ぼくの 仕事は便所そ うじ」	道徳「ちびた 鉛筆の教え」	社会「調査 テーマを決め よう」	学活「働く 人々」	道徳「合唱コ ンクールに向 けて」	道徳「一九九 五年一月十七 日」	学活「わたし の価値観と職 業」	道徳「一年間 を振り返って」
内容	自己の内面に目を向け、自分の生活を見直そうとする心を育てる。	仲間の誘いや仲間関係の形成や拡張を促す。	自分の夢や希望を自覚するとともに、今後の進路学習に意欲をもつ。	奉仕の精神をもって進んで公共の福祉と社会の発展に尽くそうとする気持ちを高める。	自己を見つめ、苦しいに耐え、自己の向上を目指す気持ちを高める。	資料などから課題を発見し、見通しをもって調査テーマを設定する。	さまざまな職業や働く人々の職業選択への関心を高める。	学級や自分の目標を実現しようとする気持ちを高め、協力するすばらしさを知る。	思いやりの心をもち、互いに協力し合うこととする気持ちを高める。	自己理解を深め、仲間と価値観を出し合おうと、他者の個性にも気付く。	自分自身を謙虚に振り返ることで、来年度に生かそうとする気持ちを高める。

期 月	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
中2 教科・ 内容	道徳「美しく 自分を染めあ げてください」	保健体育「チ ームの中の自 分」	学活「私の進 路生活」	学活「上級学 校を調べよう」	総合「職場体 験レベラアッ 大作戦」	学活「私はだ あれ」	道徳「愛され るデンさん」	道徳「合唱コ ンクールに向 けて」	総合「職場体 験報告会」	学活「進路計 画の吟味」	道徳「一年間 を振り返って」
内容	自己の内面に目を向け、自分の生活を見直そうとする心を育てる。	自分の課題を見付け、基本的技能を身に付けて楽しくゲームをする。	進路計画を具体化し、希望の実現に向けて生活への意欲を高める。	上級学校の概要をつかみ、進学の目的や意義について考える。	職場体験に向け、勤労の意義や働く人々の思いを知り、心構えをもつ。	職業理解を深めるとともに、自己理解を深める。	進んで社会のために尽くし、よりよい社会を築こうとする気持ちを高める。	学級や自分の目標を実現しようとする気持ちを高め、協力するすばらしさを知る。	校区の小学6年生を対象に、職場体験で学んだことを分かりやすく伝える。	自分を実社会の中で生かすことのできる職業について考え、進路計画の見直しをする。	自分自身を謙虚に振り返ることで、来年度に生かそうとする気持ちを高める。

期 月	1				2				3		
	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
中3 教科・ 内容	道徳「美しく 自分を染めあ げてください」	国語「メデ ィア社会を生 きかす」	学活「適切な 言葉遣いを学 ぼう」	学活「主体的 な進路選択」	道徳「灯りの 下の燭台」	道徳「筆」	総合「輝いて いる大人って ？」	道徳「合唱コ ンクールに向 けて」	学活「25歳 の私からの手 紙」	学活「模擬面 接をしよう」	学活「新しい 生活への抱 負」
内容	自己の内面に目を向け、自分の生活を見直そうとする心を育てる。	文章を比較しながら詳細・改善し、表現力を養う。	正しい言葉遣いについて考え、正しいマナーを身に付ける。	卒業後の具体的な進路を考え、進路計画を立て、取り組む心構えをもつ。	役割と責任を自覚し、協力し合って集団生活の向上に努めようとする意欲を高める。	自己の向上を図り、充実した生き方を求めようとする気持ちを高める。	輝いている大人の生き方を知り、これからの生活に生かす。	学級や自分の目標を実現しようとする気持ちを高め、協力するすばらしさを知る。	将来の自分から今の自分へ励ましの手紙を書き、夢と希望をもち自らの生き方を考える。	自分や友達の模擬面接を通し、自己表現の仕方についての基本的な態度を見直す。	卒業に当たって新しい生活への抱負を語り合い、決意と意欲をもつ。

平成25年度「キャリア教育 実施内容」 宮田中・宮田小・藤里小校区

【資料28】

期	1			2			3					
月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	
小1	教科・内容	学活「友だちになろう」	学活「とうばんがえよう」	道徳「もぐれるよ」	国語「ほんはとものだち」	学活「かかりのしごとを見なおそう」	道徳「くつあらい」	学活「がんばろう！学習発表会」	学活「友だちのよいところ」	生活「むかしのあそびをおしえてもらおうかい」	生活「ほいくえんほうもん」	国語「おもいで出にかころう」
	内容	自分の名前や好きなことを発表し合い、人間関係を築く。	係活動や当番活動を通して、自分の役割に付き、すずんで果たそうとする。	いろいろながまばり方を知り、自分なりの方法で努力しようとする意欲を高める。	読み物に興味をもち、行動や気持ちについて想像を広げながら読む力を身に付ける。	1学期の係活動を振り返り、評価・改善して、よりよい活動を目指す。	働くことの喜びを知り、進んで働くようとする意欲を育てる。	自分の役割に進んで取り組み、互いに認め合い、励まし合い、協力し合う。	友達の良いところを見つけて発表し合い、自分のよいところを褒めあうことができる。	地域の人と関わりながら、昔の遊びで楽しく遊ぶことができる。	園児と積極的に関わりながら、一緒に活動する喜びや関わる楽しさを共感する。	必要なことを選んでメモし、組み立てて考えて書くことができる。
小2	教科・内容	学活「1年でやりたいことを見つけよう」	生活「どきどきわくわく町たんけん」	学活「雨の日の遊びを考えよう」	国語「うれしことば」	学活「夏休みの発表会をしよう」	道徳「たんじょう日のプレゼント」	学活「がんばろう！学習発表会」	国語「すすんで考えを出し合おう」	道徳「きゅうたいのおじさん」	学活「卒業生を送る会の相談をしよう」	学活「わたしの足跡」
	内容	学習や生活についての目標を決め、1年後や将来の自分をイメージする。	地域の人と接しながら町の不思議を発見し、グループで協力して町探検する。	雨の日の遊びを考え、中で、学校の課題を見出し、解決しようとする。	言葉には気持ちや伝える働きがあることに気づき、うれし言葉での生活を心がける。	夏休みに体験したことや友達に分かりやすく発表する。	働くことの意義を理解し、進んで働くようとする意欲を育てる。	自分の役割に進んで取り組み、互いに認め合い、励まし合い、協力し合う。	自分が伝えたいことを整理して話したり、反応し合うように聞くことができる。	みんなのために働く人々に対し、尊敬と感謝の気持ちを育てる。	送る会の意義を知り、役割分担をして、自分の役割に責任をもって取り組む意欲をもつ。	
小3	教科・内容	学活「1年でやりたいことを見つけよう」	国語「しつもんを言ったりしよう」	道徳「ドッジボール」	国語「用件や気持ちがつたわるように書こう」	社会「はたらく人とわたしたちのくらし」	道徳「ことばのまほう」	学活「がんばろう！学習発表会」	学活「友だちのよさを発見しよう」	学活「学級のくらしを工夫しよう」	道徳「たすけ合い」	学活「わたしの足跡」
	内容	学習や生活についての目標を決め、1年後や将来の自分をイメージする。	語の中心に気を付けて聞き、質問をしたりする。	友達の気持ちを考え、励まし合い、助け合おうとする気持ちを育てる。	用件を明確にし、目的や必要に応じて書き方を工夫して書くことができる。	地域で働く人々の様子を知り、その特色や工夫したりの努力を知る。	礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接しようとする意欲を育てる。	自分の役割に進んで取り組み、互いに認め合い、励まし合い、協力し合う。	友達の良いところを見つけて、自分自身の長所にも気づくことができる。	学級生活の中で、これまで以上に自分たちでできることを探し、自己活動意欲を高める。	生命の大切さを知り、互いに助け合おうとする気持ちを育てる。	
小4	教科・内容	学活「1年でやりたいことを見つけよう」	国語「話し合いのしつもんを言ったりしよう」	総合「環境調査 フラワーパーク江南」	学活「なかよし集いをしよう」	社会「住みよくなる」	総合「命」	学活「がんばろう！学習発表会」	道徳「ぼくのできること」	学活「新しい年の目標をたてよう」	総合「二分の一人式」	学活「わたしの足跡」
	内容	学習や生活についての目標を決め、1年後や将来の自分をイメージする。	合意点を見つけて発言し、話し合いによって物事を決める楽しさを知る。	環境問題についての学習テーマを追究するために、情報収集の計画を立てる。	なかよし集いを企画・運営し、友達と仲よくすることを確認し、学年の絆を深める。	地域の人々の健康と安全を守るための働きと、その工夫や努力を理解することができる。	命の大切さを改めて知り、生んでくれた親への感謝の気持ちを高める。	自分の役割に進んで取り組み、互いに認め合い、励まし合い、協力し合う。	働くことの大切さを知り、進んで働くようとする意欲を高める。	高学年を目標にした自分自身を振り返り、新たな目標を立て、意欲的な生活を目標とする。	今の自分を認め、家族への感謝の気持ちを表し、将来の自分の姿をイメージ化する。	
小5	教科・内容	学活「1年間の目標を決めよう」	学活「学ぼう！野外学習」	家庭科「見つめよう！家庭生活」	学活「ボランティア活動に参加しよう」	国語「自分の考えをまとめて討論しよう」	総合「見つめよう！バリアフリー」	学活「がんばろう！学習発表会」	道徳「女性指揮者たん生」	道徳「歩道にとめられた自転車」	総合「最高学年に向けて」	学活「わたしの足跡」
	内容	学習や生活についての目標を決め、1年後の自分をイメージする。	野外学習の意義を理解し、自分たちで決めた、思い出になる野外学習に出る。	家庭生活に関心をもち、正しく安全な道具の使い方を学ぶ。	勤労の価値や必要性を養い、進んで他に奉仕しようとする態度を育てる。	説明文を注意して読み、自分が興味をもった課題について調べ、文章にまとめる。	ユニバーサルデザインに配慮した生活環境と生活空間のバリアフリーについて探究する。	自分の役割に進んで取り組み、互いに認め合い、励まし合い、協力し合う。	自分のよいところを知り、精一杯の努力によってさらさらと伸ばそうとする意欲を高める。	総合で調べたバリアフリーを基に、社会に役立つ大切さと喜びの気持ちを高める。	学校の柱となり、全校が憧れる存在になるためにはどのような行動が必要なのか考える。	
小6	教科・内容	学活「1年間の目標を決めよう」	学活「学ぼう！修学旅行」	家庭科「工夫しようさわやかな生活」	道徳「二つの投書」	学活「夏休み体験発表会」	保健「健康な食生活を考えよう」	学活「がんばろう！学習発表会」	国語「本は友達」	総合「キャリア教育交流会」	総合「卒業奉仕作業」	学活「小学校6年間の思い出」
	内容	学習や生活についての目標を決め、1年後の自分をイメージする。	修学旅行の意義を理解し、自分たちで決めた、思い出になる旅行にする。	衣服のはたらきや生活にあった着方について理解し、自分の生活を工夫・改善する。	親切について話し合い、相手の立場に立って親切にしようとする気持ちを高める。	夏休みに体験したことを友達に分かりやすく発表する。	自らの食生活を振り返り、その問題点を気づき、誘惑に負けない適切な行動を選択する。	自分の役割に進んで取り組み、互いに認め合い、励まし合い、協力し合う。	読み手に本のおもしろさや伝わるように工夫して、本の帯の文章を書く。	働くことの意義や役割を理解し、中学生の職場体験学習報告会に向けて新たな目標をもつ。	卒業に向けて、お世話になった方への感謝の気持ちを込めて、奉仕活動を行う。	
中1	教科・内容	道徳「美しく自分を染めあげてください」	学活「仲間を誘う・仲間に加わる」	学活「夢や希望を大切にしよう」	道徳「ちびた鉛筆の教え」	道徳「ぼくの仕事は便所そうじ」	社会「調査テーマを決めよう」	学活「身近な人への『仕事』インタビュー」	道徳「合唱コンクールに向けて」	道徳「一九九五年一月十七日」	学活「自分に適する職業調べ」	学活「わたしの足跡」
	内容	自己の内面に目を向け、自分の生活を直そうとする心育てる。	仲間の誘いや仲間入りの方法を体験し、日常生活での友人関係の形成や拡張を促す。	自分の夢や希望を自覚するとともに、今後の進路学習に意欲をもつ。	自己を見つめ、苦しみに耐え、自己の向上を目指す意欲を高める。	奉仕の精神をもって進んで公共の福祉と社会の発展に尽くそうとする意欲を高める。	資料などから課題を発見し、見通しをもって調査テーマを設定する。	さまざまな職業や、働く人々の考えや働き方を知り、職業選択への意欲を高める。	学級や自分の目標を実現しようとする意欲を高め、協力するすばらしさを知る。	思いやりの心をもつ、互いに協力し合おうとする意欲を高める。	興味をもっている職業について調べたことをまとめ、今後の努力目標をもつ。	
中2	教科・内容	学活「自分を知らう」	保健体育「チームの中の自分（サッカー・バレーボール）」	学活「私の進路生活」	学活「上級学校を調べよう」	総合「職場体験レポート大作戦」	学活「私はだあれ」	道徳「愛されるデンさん」	道徳「合唱コンクールに向けて」	総合「職場体験報告会」	学活「進路計画の吟味」	学活「志を立てよう」
	内容	友達からの評価を受けて自己理解を深め、職業への適性を考える。	自分の課題を見付け、基本的技能を身に付けて楽しくゲームをする。	進路計画を具体化し、希望の実現に向けて生活への意欲を高める。	上級学校の概要をつかみ、進路の目的や意義について考える。	職場体験に向け、勤労の意義や働く人々の思いを知り、心構えをもつ。	職業理解を深めるとともに、自己理解を深める。	進んで社会のために尽くし、よりよい社会を築こうとする意欲を高める。	学級や自分の目標を実現しようとする意欲を高め、協力するすばらしさを知る。	校区の小学6年生を対象に、職場体験で学んだことを分かりやすく伝える。	自分を実社会の中で生かすことのできる職業について考え、進路計画の見直しをする。	
中3	教科・内容	道徳「生きる」	国語「自分の魅力を伝えよう」	総合「輝いている大人って？」	学活「主体的な進路選択」	道徳「灯りの下の燭台」	道徳「筆」	学活「夢実現への道のり」	道徳「合唱コンクールに向けて」	学活「25歳の私からの手紙」	学活「模擬面接をしよう」	学活「中学校3年間の思い出」
	内容	真理を愛し、真実を求める生き方を目指して、自分の生活を直そうとする心育てる。	グループ内で役割を決めて記者会見型スピーチをして、表現力を養う。	輝いている大人の生き方を知り、これからの生活に生かす。	卒業後の具体的な進路を考え、進路計画を立て、取り組む心構えをもつ。	役割と責任を自覚し、協力し合って集団生活の向上に努めようとする意欲を高める。	自己の向上を図り、充実した生き方を目指す意欲を高める。	希望職業に就くまでの道のりを考え、夢実現に向けての心構えをもつ。	学級や自分の目標を実現しようとする意欲を高め、協力するすばらしさを知る。	将来の自分から今の自分へ励ましの手紙を書き、夢と希望をもち自分の生き方を考える。	自分や友達との模擬面接を通して、自己表現の仕方についての基本的な態度を見直す。	

※上記網掛けの箇所は、小中学校継続のキャリア教育ファイルにファイリングする予定の教科、単元、領域である。